

# 2015 年度日本文化体験プログラム（禅寺体験などを中心として）

## Japanese Culture Experience Program 2015 (Activities with Local Residents at a Zen Temple)

章 潔、富場 康、小嶋 栄子

### 要旨

2013 年度からスタートを切り、今年度が三回目となる本プログラムは長崎短期大学国際コミュニケーション学科に來ている韓国、ベトナム、ミャンマー、中国、台湾の留学生計 30 名を、長崎県東彼杵郡波佐見町岳辺田郷にある亀井山東前寺（真言宗）に連れていき、日本の農業・林業などについて学習し、また、カルタ、お琴などの日本文化体験をするものである。本プログラムを通して、留学生と地域住民に多文化交流・国際理解の機会・場の提供を行うとともに、留学生を主体とする民間レベルでの国際交流活動の一層の促進を図りたい。

### キーワード

日本文化体験 留学生 禅寺体験

### 実績報告

#### I. 参加留学生構成（国・地域別、性別）

国籍・地域	男（名）	女（名）	計（名）
韓国	4	10	14
ベトナム	4	2	6
ミャンマー	4	1	5
中国	3	1	4
台湾	0	1	1
合計	15	15	30

#### II. プログラム日程表

2015 年 11 月 19 日（木曜日）

時間	内容	備考
12:50	長崎短期大学出発	留学生乗車（貸切バス 2 台、引率 4 名）
14:00	東前寺に到着	
14:05	東前寺「入門式」	学生代表の挨拶（中国女子留学生 1 名、韓国男子留学生 1 名）
14:30	波佐見町永尾郷木場山（原木椎茸栽培場見学）	日本の森の名人 100 人に認定された楠本和義さんの説明を聞き、日本の農業・林業について学習する。
15:30	西山製陶所見学	絵付け体験など
16:30	東前寺に戻る	

時間	内容	備考
16:45	境内清掃、食事の準備	
17:00	清掃終了	
17:30	日本の温泉（波佐見温泉）	行かない留学生は東前寺で食事の支度を手伝う、待機。
19:00	地域の住民と一緒に食事会	
19:30	片付け	
20:00	波佐見町の地域住民（檀徒会メンバーや中高生たち）との交流会	留学生たちによるミニ多国言語レッスン（韓国、ベトナム、ミャンマー、中国）を実施。
22:00	自由時間	
23:00	消灯、就寝	

2015年11月20日（金曜日）

時間	内容	備考
06:00	起床	
07:00	勤行、座禅体験	
08:00	地域の住民と一緒に朝食	
08:30	片付け	
09:00	留学生によるミニ茶会	お茶の飲み方、お菓子の取り方（鎮信流）を地域の住民たちに教える。お茶を通して、コミュニケーションを図る。
10:00	日本文化体験	カルタ、お琴、波佐見音頭
11:00	清掃	
11:40	東前寺出発	貸切バス2台
12:40	長崎短期大学到着	
13:10	3限目開始	留学生たちが午後の授業に参加

### Ⅲ. 地域住民に対するアンケート調査結果

本プログラムに参加した地域住民（波佐見町）についての状況を把握するとともに、禅寺体験に対する地域住民側の感想、要望について調査を行い、今後の改善のためにアンケートを実施した。（調査票は図1を参照）また、今回のアンケートはループリック方式を導入した。ループリックとは「ある課題について、できるようになってもらいたい特定の事柄を配置するための道具」（ダネル、2014:2頁）である。アンケート調査の回答数は標本数29件（29人）、有効回収数28件（28人）であった。調査結果の要約は以下のとおりである。

日本文化体験プログラム評価表

平成27年11月19～20日

長崎短期大学・国際コミュニケーション学科

※該当する評価欄に○をつけてください。

評価段階→ 評価項目 ↓	とても思っている	少し思っている	普通	あまり思っていない	まったく思っていない
	5	4	3	2	1
①留学生が積極的にプログラムに参加し、意欲的に日本文化を理解しようとした。					
②留学生が積極的に地域の方々に話しかけ、自国の文化・社会事情について紹介した。					
③留学生と地域の方々と協力し合って活動した。					
④東前寺、西山製陶所などを見学・体験することによって、留学生が日本の文化や習慣にふれ、理解した。					
⑤留学生による言語レッスンなどを通して、各国の文化・社会事情にふれ、知ることができた。					
⑥本プログラムを通して、日本と他国の文化・考え方の違いを感じ、それぞれの国の文化が理解できた。					
⑦留学生が本プログラムを通して、地域の方々にいい刺激を与えた。					
⑧本プログラムが留学生の今後の留学生活などに役立った。					
⑨今後も本プログラムを続けてほしい。					
コメント・その他					

※このアンケートを今後の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございます。

図1 日本文化体験プログラム評価表（ルーブリック評価）

表1 ルーブリック評価の結果①（単位：人）

評価段階→ 評価項目 ↓	5	4	3	2	1
①	19	6	3	0	0
②	9	9	8	2	0
③	12	13	3	0	0
④	10	14	4	0	0
⑤	15	7	4	2	0
⑥	12	11	4	1	0
⑦	13	10	4	1	0
⑧	14	8	6	0	0
⑨	17	8	1	2	0

表2 ルーブリック評価の結果② (単位:点)

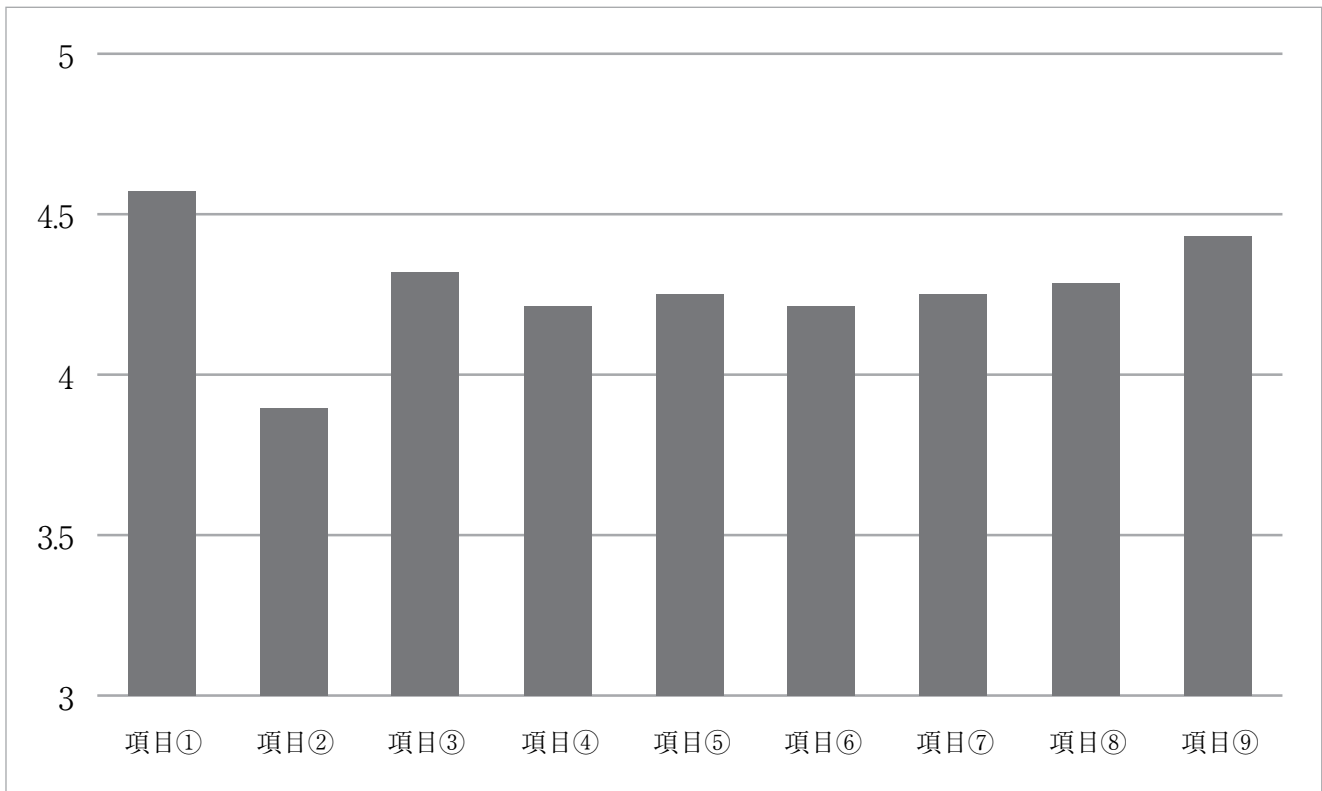


表1は評価項目に対して、それぞれの評価段階に「○」をつけたアンケート回答者数である。表2は各評価項目の平均点である(満点5点、計算式:  $5 \times \text{回答者数} + 4 \times \text{回答者数} + 3 \times \text{回答者数} + 2 \times \text{回答者数} + 1 \times \text{回答者数}$  / 合計回答者数「28名」)。表1, 2に示されているように、項目①「留学生が積極的にプログラムに参加し、意欲的に日本文化を理解しようとした」の評価は最も高い(4.57点)。それに対して、項目②「留学生が積極的に地域の方々に話しかけ、自国の文化・社会事情について紹介した」の評価は3.89であり、評価項目の中で唯一、4点に達しておらず、最も低い評価項目となった。今年度も本学に入学した留学生は殆ど、意欲的に日本語を学習し、積極的に日本文化を理解しようとしている。しかし、本プログラムは時間的な制限も多く、地域の方々に自国のことを紹介する時間が十分とれなかった。また、留学生の日本語力がまだ不十分で、言葉の壁を解消できなかったため、このような結果になったと思われる。

#### コメント:

- ・各国の文化について知ることができてよかったし、楽しかった。
- ・滅多に色々な国の人と触れ合うことができなきので、良い経験になりました。
- ・いろいろな国の人とさまざまな文化に触れ合うことができるとてもよかった。今後も続けてほしいと思う。
- ・誰もが人と触れ合い、良く話していた。
- ・私達にとってもいい体験ができました。もし留学をする時は学んだことを生かしたいと思いました。本プログラムに参加してとてもよかったです。
- ・楽しかった。アジアの言語とか(多分)ちょっと覚えてる。
- ・留学生の人達が自分達の国の紹介をしていて、とても面白かった。
- ・あまり異国の人と話す機会がないので、良い体験になりました。
- ・留学生が毎年見え、私達もちょっとした文化の違いなど勉強させてもらいましたが、時間が経つと頭の中はもう空。でも触れ合うだけで楽しいのでこれからも続けてください。

- ・ 学生さんの国の違いを日本の文化に慣れ様としておられる多くの国の学生さんたちの姿を見て、私も少しでも役に立てたらいいなあと思った。
- ・ 留学生との交流を東前寺で行っていらっしゃることが初めてで驚きました。他国の文化を理解することは大切なことだと思います。もっと仲良くなり少しでも話ができたら素晴らしいと思います。私ごとですが、孫がフィリピンから帰国して3年目になりますが、英語又生活面でも色々と話をしてくれて発見することがあります。初めての体験でいい時間をいただき、ありがとうございました。できれば檀家さんの子供さん、孫さん達も交流の機会を作ってもらったらいいですね。
- ・ 留学生の方のおかげで改めて日本の文化の良さを再確認することができました。ありがとうございました。
- ・ 国際化が進む中、大切なことはお互いの国の文化を理解することだと思います。本プログラムは、時宜を得たものであり継続することでその目的は達成されると思います。
- ・ 2回目の参加でしたのでアンケート内容と評価できない項目がありました。お茶や方言カルタ一緒に参加できて楽しかったです。
- ・ 大変良い学生さんでした。食事喜んで食べていただき嬉しかったです。手伝いも良くしていただき大変良かったと思いました。
- ・ 日程が過密で、日本の文化を吸収する時間が、足りないのではと感じた。大学側、迎える側共にプログラムも充実していて大変だったと思います。体験学習にあたり事前学習がしっかりできていたのを生徒さん達を見ていて感じました。
- ・ 日本の文化体験に波佐見・東前寺に来ていただきありがとうございました。夕食もおいしいと食べていただき、またレクリエーションも楽しませてもらいました。また来てください。お待ちしております。
- ・ 絵付けの体験は良いことと感じているが、留学生全員と一緒にできる物産会館の方が好ましいと感じている。焼き物のできる過程を見学する西山製陶所は今少し声を大に（マイクを使用さればと感じます）。時間的な制約もあるのでしょうか。今少し時間を持って、波佐見を知っていただきたいと考えます。体験プログラムが組まれていることは大変良いことだと思いますが、こちらから学校を訪問し、授業参観等できればと思っています。
- ・ 留学生との交流楽しかった。食後の食器洗いも手伝ってくれて嬉しかった。
- ・ 二日間という短い期間でしたが、日頃若い方々と行動を共にすることがなく、楽しい日を送ることができました。ゲームなど積極的に取り組み、留学生と思われぬほど、日本文化・言葉を身につけていましたね。私達も勉強になりました。ありがとうございました。



写真1 留学生と地域住民とのカルタ体験



写真2 留学生によるミニ茶会（鎮信流）

(2015年11月20日章撮影)

#### IV. まとめ

今年度、長崎短期大学が平成27年度「大学教育再生加速プログラム」(Acceleration Program for University Education Rebuilding: AP)に選出され、全国の短大では唯一採択され、5年間で約7千万円の助成を受ける予定である。このAPの採択によって、本学は地域の職を支える人材の育成を目標とし、2016年度から4学期制を導入し、1年次に国内外で多様な活動ができる「長期学外学修プログラム(ギャップイヤー)」を始めることとなった。長崎短期大学の地域貢献という観点から始まった本プログラムが、AP採択の追い風になり、来年度も大学と地域双方の理解を深め、留学生の満足度を上げるなど様々な効果を生む活動としてますます発展することを願ってやまない。

#### 参考文献

1. 「大学教員のためのルーブリック評価入門」(2014年)ダネル・スティーブンス+アントニア・レビ著, 井上敏憲+俣野秀典訳, 玉川大学出版部。